

# 「日本の気候変動2025」の進捗

## （評価検討部会活動報告）

---

2024年2月9日

評価検討部会

「日本の気候変動2020」とは

「日本の気候変動2025」の進捗

- ・ 前回の懇談会以降の取組
- ・ 評価検討部会(第1回)
- ・ 地方自治体に対するアンケート調査
- ・ 評価検討部会(第2回)
- ・ 章立てとコラム

「日本の気候変動2025」作業スケジュール

# 「日本の気候変動2020」とは

## 日本の気候変動に関する観測成果と将来予測について、とりまとめた資料。（温室効果ガス、気温、降水量、海面水温・水位等）

- 2020年12月公開。気象庁と文部科学省が共同でとりまとめ。
- 予測については、主に2°C上昇と4°C上昇の2通りについて掲載。
- 本書の内容は、**気候変動適応法に基づく「気候変動影響評価報告書」へ反映**され、我が国における気候変動適応施策等の基礎として活用。
- 気象庁ホームページで閲覧可能。  
<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/ccj/index.html>





- 概要版

- ✓ 概要をコンパクトにまとめた資料（十数ページ）
- ✓ 勉強会や講演、授業での使用を想定（そのため、横長版としている）



- 本編

- ✓ 気候変動の観測成果や予測の説明のみならず、その根拠や解説も含めた資料（数十ページ）
- ✓ 気候変動に関する政策や取組等を立案・実施する担当者向け（国・地方自治体、事業者等）



- 詳細版

- ✓ 本編の内容の根拠を含め、より詳細な情報を参考文献と共にまとめた資料（約260ページ）
- ✓ 本編を読んだうえでさらに詳しく知りたい方、研究者・専門家向け
- ✓ 日本及びその周辺だけでなく世界全体についても言及したほか、背景要因も詳しく解説



- 都道府県リーフレット

- ✓ 各都道府県における気候変動の観測成果及び将来予測に関する情報をとりまとめたリーフレット（見開き）

2022年 12月

## 気候変動に関する懇談会 (第6回)

- ✓ 「日本の気候変動2025」プロジェクトの開始。
- ✓ 評価検討部会の立上げ。

2023年 2月

## 評価検討部会 (第1回)

6月

本編0次稿執筆、懇談会委員及び評価検討部会委員に共有。

7月

## 評価検討部会 (第2回)

8～10月

詳細版1次稿執筆・査読。

10～12月

本編1次稿執筆・査読。

11～2月

詳細版2次稿執筆、現在は評価検討部会にて査読中。

2024年 1～2月

本編2次稿作成中。

<u>井田 寛子</u>	気象キャスターネットワーク 理事長
<u>大場 あい</u>	毎日新聞社 編集編成局 くらし科学環境部 副部長
◎○ <u>鬼頭 昭雄</u>	(元) 気象庁気象研究所 気候研究部 部長
塩竈 秀夫	国立環境研究所 地球システム領域 地球システムリスク解析研究室 室長
須賀 利雄	東北大学 大学院理学研究科 教授
<u>名取 晶子</u>	損害保険料率算出機構 火災・地震・傷害保険部 企業火災グループリーダー
浜田 崇	長野県環境保全研究所 自然環境部 温暖化対策班 主任研究員
藤部 文昭	(元) 気象庁気象研究所 環境・応用気象研究部 部長
○ <u>保坂 直紀</u>	サイエンスライター／東京大学 大学院新領域創成科学研究科 特任教授
町田 敏暢	国立環境研究所 地球環境研究センター 大気・海洋モニタリング推進室 室長
<u>森 信人</u>	京都大学 防災研究所 教授
渡辺 真吾	海洋研究開発機構 地球環境部門 環境変動予測研究センター センター長代理
渡部 雅浩	東京大学 大気海洋研究所 教授

◎：部会長、 ○：懇談会委員と兼務、 下線：前部会から追加した委員  
(令和6年2月時点、五十音順)

## 2025の作成方針について議論。

- 本編を「より分かりやすく」。
  - ✓ 地方自治体担当者がそのまま利用できるような、平易な記述に。
- 最新の知見の取り込み。
  - ✓ IPCC第6次評価報告書の知見の取り込み。
  - ✓ 2020以降の新たな知見の取り込み。
- より効果的・効率的な利活用のための広報戦略の検討。
  - ✓ 若年層への効果的なインプットが必要。
- 対象とする地方自治体から意見を伺う機会が必要。
  - ✓ 地方自治体へアンケート調査を実施。

## 調査の実施概要（2023年6月実施）

- 対象：都道府県及び政令市
  - 国立環境研究所気候変動適応センターを通じて、調査協力を依頼。  
一部の政令市は、現地気象台から呼びかけ。
- 58/66の地方自治体から回答。

（都道府県と政令市の合計は67だが、京都府と京都市はまとめて一つの回答をいただいております、自治体総数は66となった。）

## 調査の結果

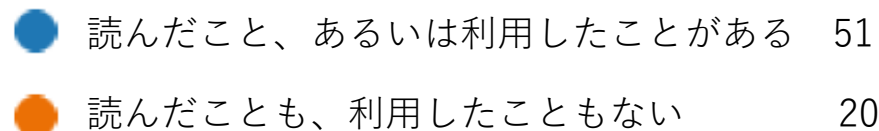
- 2020の利用について
    - ✓ 多くの自治体で、担当者の自主学習資料のほか、政策や取組等の立案・実施の際に、活用いただいていた。
    - ✓ 簡潔な資料(概要版やリーフレット)ほど、利用が多かった。
  - 2025に対する要望
    - ✓ 分かりやすさの改善、データの利便性向上、地域特性を考慮した情報の充実。
- 調査結果は、地方自治体に還元。



1. 「日本の気候変動2020」を読んだこと、あるいは利用したことがありますか

<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/ccj/index.html>

「日本の気候変動2020」  
（概要版、本編、詳細版）  
を利用したことがあるか



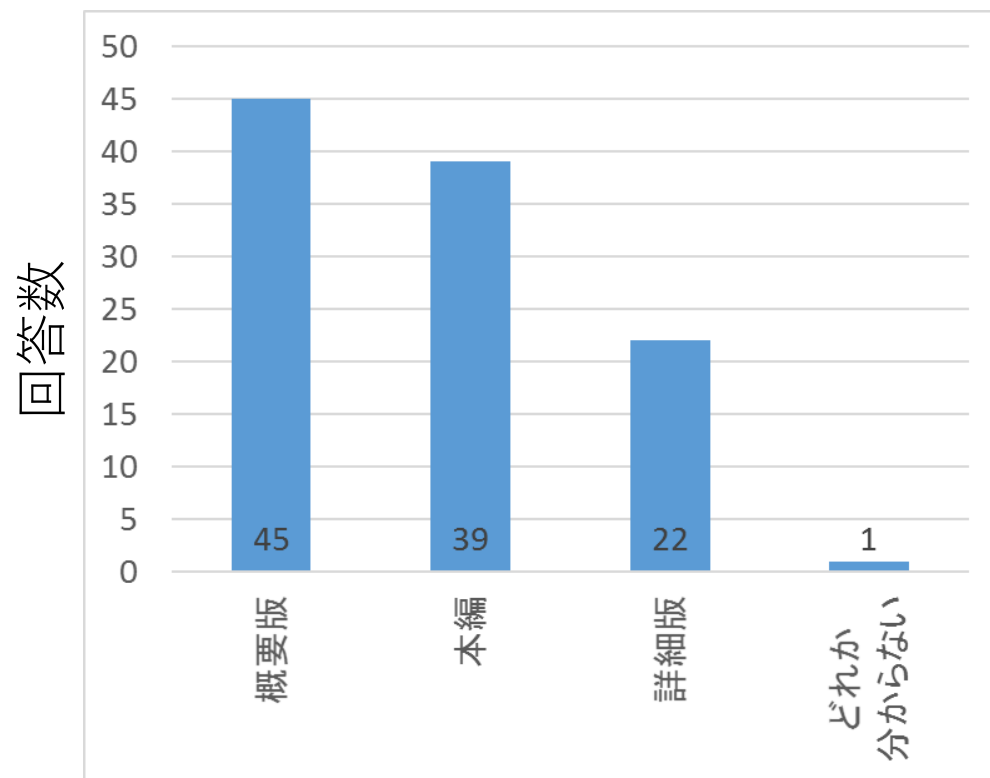
10. 都道府県版リーフレットを利用等したことがありますか

URL : [https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/gw\\_portal/region\\_climate\\_change.html](https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/gw_portal/region_climate_change.html)

都道府県版リーフレット  
を使用したことがあるか

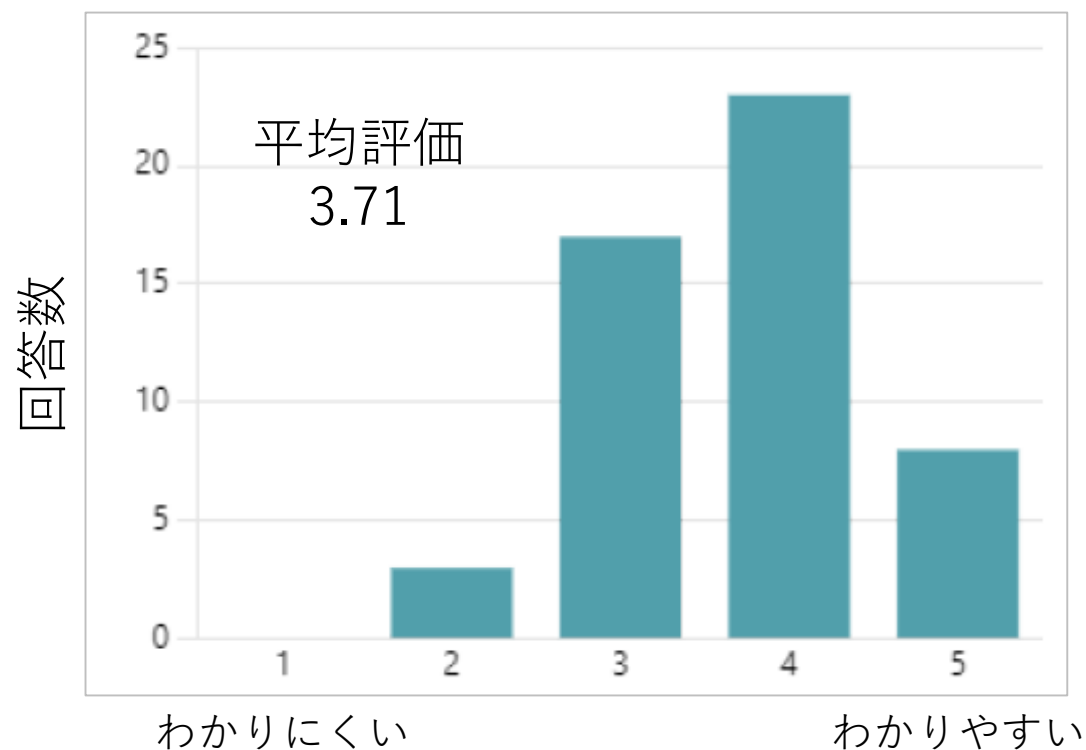


2. 「日本の気候変動2020」は概要版、本編、詳細版とありますが、どれを利用等しましたか（複数選択可能）



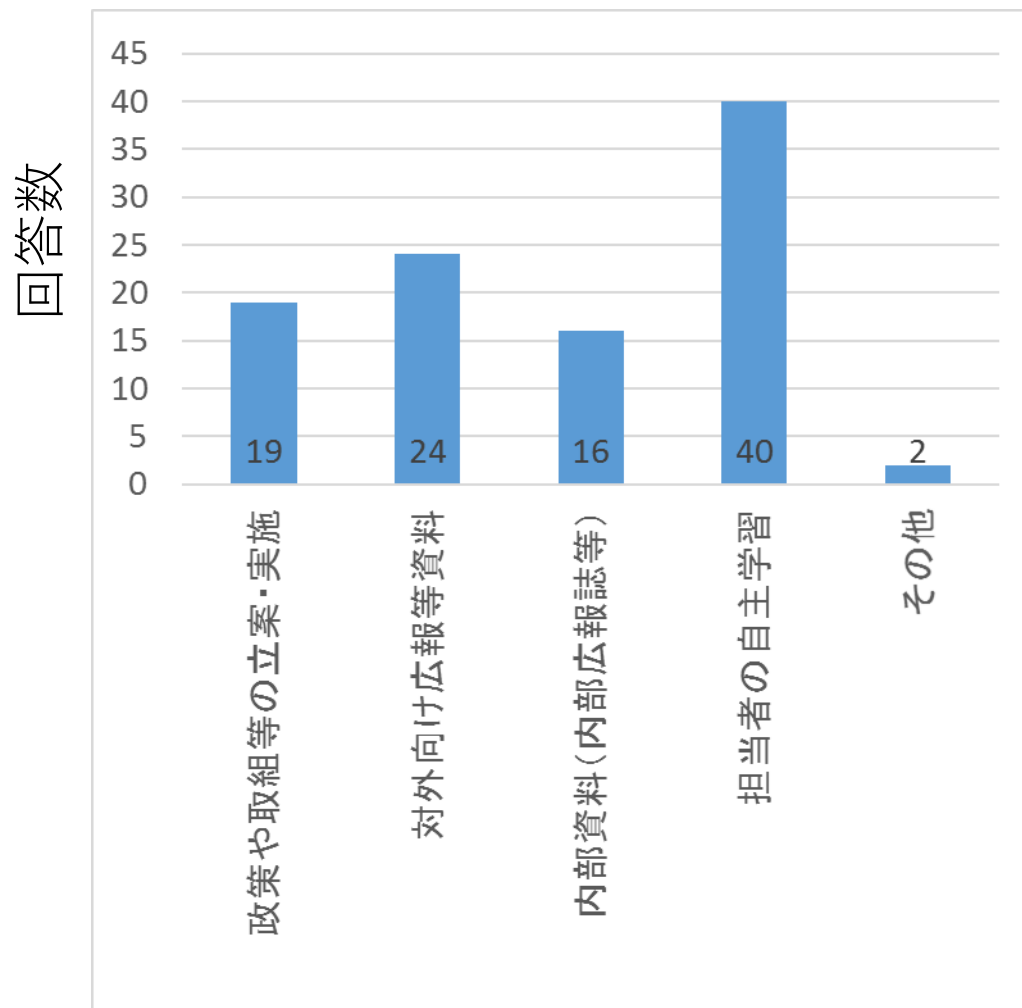
6. 「日本の気候変動2020」の文章のわかりやすさについて、どのように感じましたか

1（わかりにくい）～5（わかりやすい）



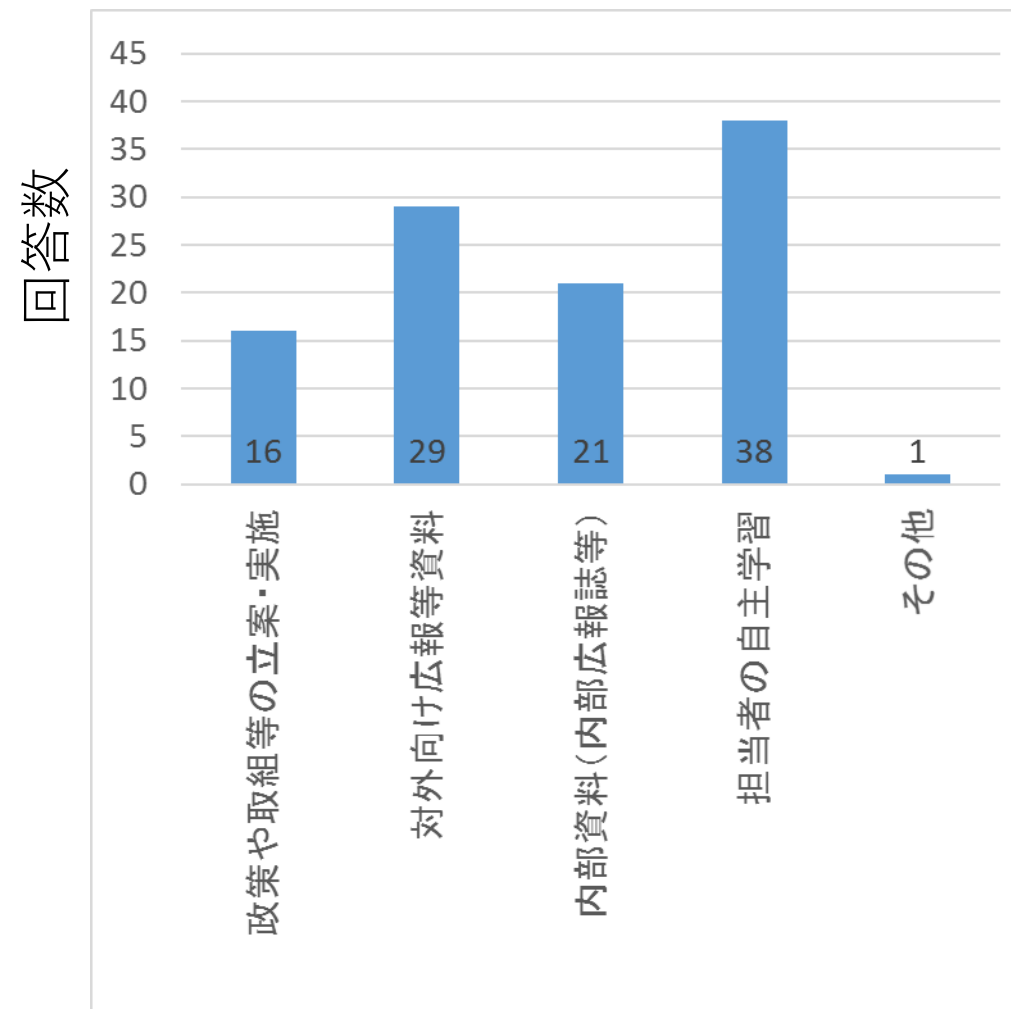
## 2020利用者（51件）が対象

4. 「日本の気候変動2020」をどのような目的に利用等しましたか（複数選択可能）



## リーフレット利用者（55件）が対象

11. 都道府県版リーフレットをどのような目的に利用等しましたか（複数選択可能）



- 県内市町村向け研修、シンポジウムの講演資料として使用した。
- 専門知識がない人でもわかりやすく書かれていて良かった。
- 将来気象がどのように計算されたのか、不確実性の説明など、もう少し丁寧な説明があってもよいと思う。

- 地方自治体アンケート結果報告
- 気象キャスターネットワークアンケート結果報告  
(評価検討部会 井田委員ご協力)
- 「日本の気候変動2025」のアウトライン  
✓ 章立てとコラムを決定

# 「日本の気候変動2025」章立て

- ・ 2020本編では別章としていた観測成果と将来予測を、2025では一つの章にまとめ、記述の一貫性・連続性を図る。
- ・ 本編と詳細版とで章番号を揃え体系をシンプルに改善するとともに、読み手の参照性も向上。

章タイトル	章番号				
	2020			2025	
	本編	詳細版		本編	詳細版
はじめに	(番号無し)	1		1	
気候変動とは	(番号無し)	2		2	
大気組成等	1	3		3	
気温	2、3	4		4	
降水	4、5	5		5	
降雪・積雪	6、7	6		6	
熱帯低気圧	8、9	7		7	
海水温	12、13	9		8	
海面水位	14、15	10		9	
海氷	16、17	11		10	
高潮・高波	18、19	12、13		11	
海洋酸性化	22、23	15		12	
大気循環	10、11	8		(コラムへ) 13	
海洋循環	20、21	14		(コラムへ) 14	

## 2020

### 【本編】

1. 都市気候
2. イベント・アトリビューション事例
3. さくらの開花とかえでの紅葉・黄葉日の変動
4. 1.5°Cの気温上昇

### 【詳細版】

1. 大気組成の変化と気候変動
2. スケーラビリティ
3. 地球温暖化の停滞現象(ハイエイタス)と十年規模変動
4. 気候変動を踏まえた治水計画のあり方について
5. 急速に発達する低気圧
6. イベント・アトリビューション
7. 国際的な気候観測体制の現状と課題等
8. 高潮の危険性と地球温暖化
9. 海洋酸性化に関連するQ&A
10. 炭素循環

## 2025

### 【本編】

1. 将来予測
2. 1.5°C/3°C上昇で起こる将来変化
3. 極端現象の確率的表現について
4. 大気循環、海洋循環
5. 気候変動適応法及び気候変動影響評価報告書について

### 【詳細版】

1. 予測の不確実性
2. 十年規模変動と近未来予測
3. IPCCの排出シナリオ
4. 気候予測データセット2022
5. 京都のサクラ満開日
6. 都市気候
7. 極端現象の確率的表現について
8. イベント・アトリビューション
9. 洪水
10. 土砂災害
11. 海洋熱波
12. 日射量の将来予測

# 「日本の気候変動2025」作業スケジュール

2025.3中旬予定

公表

2025.4

現在

2024.4

2023.4

## 執筆・査読等

▼本編0次稿

▼本編1次稿

▼本編2次稿査読  
(2024.5)

▼本編3次稿査読  
(2024.9)

▼最終稿確認  
(本編・詳細版)

▼詳細版1次稿

▼詳細版2次稿査読  
(2024.2)

▼詳細版3次稿査読  
(2024.6)

▼関係省庁意見照会

懇談会委員に  
査読依頼

## 会合等

▼第6回懇談会(2022.12)

▼第7回懇談会(2024.2)

▼第8回懇談会

▼第1回部会(2023.2)

▼第2回部会(2023.7)

▼第3回部会

▼第4回部会